

挑戦を楽しむ 越谷ゆかりのアスリート

越谷市にゆかりのあるスポーツ選手にインタビューしました。挑戦を楽しむ選手たちの魅力をお届けします。



パリ2024パラリンピック競技大会
車いすラグビー日本代表 **倉橋 香衣 選手**

大学生のときの事故により、^{けいずい}頸髄を負傷。
その後リハビリを経て車いすラグビー
を始める。

選手の素顔

海外遠征では行った先の国のクラフトビールを買って集めるのが楽しみの一つ。ビール好きで晩酌のときにリフレッシュしているそうです。



ーパラリンピックは東京大会に続いての出場でしたが、会場の印象はどうでしたか。

もう、めちゃくちゃ楽しかったです。本当にみんながこの試合を期待してくれているという熱気で盛り上がっていて。両親や友人、会社の皆さんも応援に来てくれているので、試合会場で探していました(笑)。

ー試合中は緊張はしていなかったのですか。

そうですね。緊張はしませんでした。でも、こういうインタビューとかは緊張します(笑)。

ーどの試合が印象に残っていますか。

全部です。毎試合すごく楽しかったです。観客の皆さんの応援は届いていましたし、今まで練習してきた成果が出せて、チームメイトとの連携では練習どおりにうまくいっているという感覚がありました。

ー笑顔が非常に多く、表情が柔らかかった印象を持ちました。

心から楽しめたからだと思います。試合の流れが悪くなったときも、笑顔でプレーできました。国際大会の経験や合宿での準備が生かせました。

ーこれまで努力の積み重ねをされ、ついに金メダルの獲得となりました。感想を教えてください。

金メダルを取った！ という実感はあまりないんですよ。表彰式で金メダルを見た瞬間は、わあ、きれいって。これまでの頑張りが結果につながったとしみじみと思いました。

ー金メダリストとして、自分を褒めてあげたいところはどこですか。

日々のコンディショニングです。けがとずっと付き合いながらやってきたので、自己管理は大変でした。

ー具体的に教えてください。

痛みと向き合いながら練習するのは非常につらいと感じることもありました。それでもよく耐えてきたなって。

ー越谷市に対して、どのようなイメージを持っていますか。

人の温かさを感じています。また、坂道が少なく動きやすいので、「まち」も「人」もフラットだなと思います。

ーふだん、どんな方法でリフレッシュしていますか。

寝るのがとにかく好きなので、時間があれば寝ています(笑)。あとは友人とごはんに行ったり、旅行へ行ったりして過ごしています。

ー最後に、市民へのメッセージをお願いします。

私は楽しむことを大切にしています。楽しむことで、金メダルという結果がついてきました。皆さんのそれぞれの暮らしの中で、楽しんでもらいたいと思います。



ー初めてのパラリンピックはいかがでしたか。

会場に入場し、歓声を聞いたとき、鳥肌が立ちました。これまでさまざまな大会に出場してきましたが、初めての経験でした。

ー緊張はしませんでしたか。

私はあまり緊張しないタイプですが、プレッシャーは感じていたのかもしれない。ただ試合が始まると、この大歓声の中でいいプレーをしたい、とにかく楽しみたいという気持ちのほうが強かったです。

ー試合では攻撃の姿勢・守備の姿勢が誰よりも強かった印象でした。

3試合目のアルゼンチン戦は闘争心の塊で臨みました。これまでの試合で結果が残せず、チームは落ち込んでいました。なんとか1点取ってムードを変えたかった。どのような状況でも全力を出し切るんだという強い気持ちがありました。

ーブラインドフットボールの特徴を教えてください。

まずは、「見える人」と「見えない人」が同じピッチに立って協力して勝利を目指します。同じ空間で協力して競技が成り立つところが魅力です。

もう一つは、「見えない人」がいちばん自由に動けるスポーツだということです。自分が思い描くイメージや、瞬間的に湧き上がるひらめきを瞬時に行動に移せる競技、それがブラインドフットボールだと思います。

ー試合ではどのように状況を把握していますか。

ボールの音や相手の声に加え、ゴールキーパー、ガイド、監督など「見える人」からの声です。これらの音や反響を捉え、瞬時にピッチ全体を把握する空間認知も大切で、技術を生かし、プレーしていくために欠かせないものです。

ー^{フリー} ^{バード} ^{メジロダイ}「free bird mejirodai」について教えてください。

「free bird mejirodai」は友人と一緒に作ったチームで日本一を目標に掲げ、どのチームよりも厳しい練習をしています。全員が攻撃・守備をする「トータルフットボール」掲げ、日本選手権やクラブチーム選手権などで日本一を獲得することができました。チームから羽ばたいて、自由にブラインドフットボールというものを各地で広めてほしい、という思いがチーム名の由来です。

ー越谷市といえばどんなイメージを思い浮かべますか。

一言で表すと「帰ってくる場所」ですね。パラリンピック後、久しぶりに実家に戻ったとき、落ち着いて過ごせました。私は小さい頃からずっと越谷に住んでいたもので、魅力をひと言で語るのには難しいのですが、帰ってくると安心します。

ー最後に、市民へのメッセージをお願いします。

ブラインドフットボールのことを多くの人に知ってほしいです。会場での観戦、映像での観戦、いろいろな機会がありますので、まずは知って、興味をもってもらい、そして応援してもらいたいと思います。

私は視力を失いましたが、障がいをもっていても、一人ひとりがそれぞれ違う個性を持っています。お互いを知って、理解していくことが大切だと思っています。



パリ2024パラリンピック競技大会
ブラインドフットボール日本代表

鳥居 健人 選手

幼少期に網膜芽細胞腫を発症。目の手術により全盲となる。11歳の時にブラインドフットボールに出会う。



選手の素顔

小さいころから手先が器用で趣味は料理。

腕前は周りが驚くほどで、ふだんは基本的に自炊。思い入れのある料理は一からこだわって作った「豚の角煮」だそうです。

*二人のインタビューは市ホームページ(倉橋香衣選手HP94316、鳥居健人選手HP94317)に掲載します